

2014年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	高木 雅史		
NAME	Masashi Takagi		

1. 研究課題

（和文）高度成長期の母子保健政策による家族の子ども観・教育観形成への影響に関する研究

（英文） Effects of maternal and child health policy given to the mentality about education of the family in High economic growth period

2. 研究期間

2年

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

本研究の目的は、母子保健法(1965年制定)のもとで実施された母子保健政策、なかでも母子保健普及啓発活動の具体的様相を検討し、それが当時の家族が形成した子ども観・教育観に与えた影響について明らかにすることであった。

関係資料として、戦後初期における『家の光』を入手し、内容を検討した。この雑誌は1925年に産業組合中央会によって創刊された月刊誌であり、農業協同組合(現在のJA)を通じて農村家庭に配布形式で販売されたものである。そのため農村における家庭生活全般に関わる内容で構成されている。今回、入手できたのは基本的には1965年以前のものであるが、母子保健法制定以前の農村における母子保健の状況を知るために重要な資料である。また、母子保健に関する業務を福祉や医療の現場で担った職種の一つが助産婦である。病院出産の拡大や母子保健センターの設置にみられるような「出産の施設化」の過程において、役割を変容(衰退)させた助産婦による活動内容を知るために、『助産婦雑誌』(医学書院)を入手し、内容を検討した。さらに戦後における新生活運動に関する書籍や報告書類も入手することができた。

例えば障がいに関する考え方(発生防止・早期発見・早期治療)といった母子保健法に内包された考え方や仕組みが、高度経済成長期の家族における子どもを産み・育てること(=教育)に関して、何をどのように変容させたのか。その様相は、収集した資料からうかがい知ることができる。

他の資料とともに内容の検討を進め、研究成果としてまとめる作業を行っているところである。

（英文）

The purpose of this study was to analyze the effects of maternal and child health policy given to the mentality about education of the family in High economic growth period.

This study focused on Maternal and Child Health Act(1965).

The main subject of analysis of this study was the articles of "Ie-no-hikari" and "Josanpu-zasshi"(The Japanese Journal for Midwives).

3. 研究成果について（研究期間終了後2年以内・予定のものを含めて記入）

「戦後日本の母子保健政策・実践と教育との関連」（仮題）、掲載誌・発行年月等未定。